備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成１８年、平成１９年、平成２０年、平成２１年	根拠法令・例規等	暫定法・激甚法
総合計画	大項目	基本目標	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合先 担当課（室）	農林水産課
	中項目	基本施策	01 豊かな食を支えるまちづくり	職・氏名	係長　藤森　亨
	小項目	施策	01 農業	電話	0869-64-1830
事務事業名			04 災害復旧事業	このシート作成に要した時間	4.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	農業経営者・農業従事者及び被災対象住民
目的（何のために）	集中豪雨等天然災害により被災した、農地・農業用施設を復旧し、機能回復を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	従前の機能回復

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
農業用施設災害復旧事業	ため池、頭首工、農業用水路等の農業用施設で、受益戸数２戸以上の施設が復旧対象。	◎
農地災害復旧事業	田、畑で耕作の用に供されている土地で現に耕作している土地が復旧対象。	◎
林道災害復旧事業	市が管理する林道が被災した際に復旧を行う。	◎

決算額 事業費等	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費 直接事業費	千円	12,897	9,113	1,832
必要人員 人件費	千円	0.47人 3,452	0.38人 3,142	0.16人 1,231
事業費計	千円	16,349	12,255	3,063
財源 国県支出金	千円	9,398	4,166	617
受益者負担	千円			
繰入金	千円			
市債	千円			
その他（　）	千円			
一般財源	千円	6,951	8,089	2,446
受益者負担比率	%	－	－	－

結果指標 結果指標名	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
	説明	災害発生から完成まで２カ年経過した箇所数		
結果指標量	事業	3.0	3.0	3.0
対前年比	%	－	100.0%	100.0%
活動コスト	円	16,349,000	12,220,000	3,063,000
単位当たりコスト	円	5,449,667	4,073,333	1,021,000

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
２カ年以内の復旧率	目標値（A）	100	100	100	100
	実績値（B）	100	100	100	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	100.00%	100.00%	100.00

成果指標設定の考え方・式や説明

２カ年以内の完成箇所/災害発生総数

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- 必要性
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☑ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価

- コスト手段
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
  - ☐ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**B**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☑ 成果指標の設定は適切である
  - ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☐ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

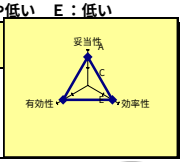
説明：災害発生後は、速やかに現場立会、査定、工事着手を行い早期完了を図る。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

本事業は工事完了の進捗状況によって農業生産に多大な影響を与えるため、早期完了を目標に行う事業である。

評価区分 <A～E>：**B**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：災害発生後は、速やかに現場立会、査定、工事着手を行っていく。
また、近年の異常気象により災害の規模が多大になってきているため、日常の施設の計画的な維持管理が今後は必要となってくる。